



橋 戸

令和3年5月31日
学校だより 第3号
練馬区立橋戸小学校
校長 青木 俊哉

「本は心の栄養剤」…手元に本を！

校長 青木 俊哉

4月23日は子ども読書の日、そこから5月12日までがこどもの読書週間でした。今年は「いっしょによもう いっばいよもう」のテーマで、子供たちが読書に親しみ、本に触れる機会を増やす取組が進められてきました。学校だよりも、毎年一度は読書的话题を…との思いをもっていますが、今回は本校の読書の取組に光をあて、お伝えします。

「ブック・バイキング」…読書月間(旬間)の朝に行う独自の取組です。取組前、子供には“紹介する本の名前(タイトル)だけ”が一覧で示されます。バイキングの名の通り、子供たちは本の名前を見て、聞きたい話を選びます。人数に偏りが出た場合など、多少人数調整をしますが、子供たちは当日“希望する本の読み聞かせ場所(教室)”に集まり待機、そこに本を持つ先生が登場…という仕掛けです。子供たちにとっては、何先生が現れるかわからないワクワク・ドキドキ感や、「こんな本をこの先生が…」といったサプライズ感が好評で、楽しみにしている子も多いと聞きます。昨年度は、感染予防の関係で、異学年の児童が関わる取組への制約が強くなり、実施できませんでしたが、その代替として、ブロック(2学年)の中で担任が入れ代わり、他学級の児童に本を読み聞かせる取組を行いました。今年も、「読書月間」中の「ブック・バイキング」の実施は難しく、とりあえず昨年度同様に「読み手シャッフルの読み聞かせ」を実施しますが、読書旬間など違う時期にでも「ブック・バイキング」に取り組みたら、子供たちの喜ぶ顔が見られるかもしれません。

「先生のおすすめ本コーナー」…これは他校でもよく見られる事例です。読書月間(旬間)に先生たちに募集をかけ、本(現物)と Pop 調の紹介文とを学校図書館前の廊下に展示します。その本を借りることもできるので、紹介文を読んだあと、本を手にとっていく姿も見かけます。それぞれの先生らしさがあふれる本だったり、予想外の本が紹介されたり…、こちらも好評です。教員に続いて「図書委員のおすすめ本」を紹介する取組もあり、私も楽しみにしています。

「親子読書のすすめ」…昨年度、おうち時間の増加もあり、「ぜひご家庭で、親子で一緒に本を…」と呼びかけました。簡単な読書記録をつけてくださったり、感想をお寄せいただいたりしたご家庭もありました。「いい機会になった」と伝えられ、嬉しく思います。担任にも、「朝読書の時間には、先生たちも本を手にして…」と伝えていますが、大人と子供、同じ本でなくてもよいのです。“読む”という時間を共有すること、同時に“本を手”にしていることが大事だと思うのです。

今回のタイトル「本は心の栄養剤」は、前任校の若手教員が発した言葉です。「“ビブリオバトル”の授業をするので見に来てください。」と頼まれ、私も一冊本を持って授業に参加した時に耳にした言葉が、まだ頭に残っていました。子供に何度も「本を読みなさい。」と言うより、一緒に読むことや読む姿を見せることの方が効果的ということを実感した授業です。デジタル全盛の世の中ではありますが、デジタルは万能ではありません。行間を読み、活字から想像を広げる読書の価値がなくなることはありません。ちなみに今秋の読書週間(全世代対象)のテーマは「最後のページを閉じた 違う私があった」。子供も大人も、こんな読後感を味わえたら最高ですね。そのためにも「ぜひ、手元に本を！」